



山だより

山のコワ〜い話 3月



『**文豪山怪奇譚:文豪山怪奇譚**』東 雅夫編 山と溪谷社 913.6/フ/

火野葦平「千軒岳にて」、菊池寛「百鬼夜行」、泉鏡花「薬草取」…。文豪たちが遺した異世界としての「山」。東雅夫の選による、山の怪談全 12 編を収録する。

『**山の怪奇百物語**』山村民俗の会編 河出書房新社 388.1/ヤ/

里の向こう、山の中では、だれもが「なにか」を感じることもある。あるときは霊異であり、魔モノであり、祟りであり、不思議であり…。「山村民俗の会」会員が秘かに語り伝える、日本各地の山の怪異現象の記録集。エンタプライズ 1989 年刊の再刊。

『**山人伝**』宇江 敏勝著 新宿書房 913.6/ウ/

山には山人の生と死がある。鉦山師、炭焼き、松煙焚き、山伏、猟師、それに狼や兎や狸や墓たち。山を知り尽くし、山に暮してきた者だけが描ける山の人生。全 15 篇を収録した短篇集。『現代林業』等掲載を単行本化。

『**山と妖怪:ドイツ山岳伝説考**』吉田 孝夫著 八坂書房 388.3/ヨ/

数々の「霊峰」を抱えるドイツ。かの地で不思議な存在感を放つ鉦山伝説や、グリムの紹介でも知られる「ホレさま」などの妖怪譚を題材に、山をめぐる伝説が今なおを語り継がれることの意味を多層的に問い直す。図版も多数収録。

『**里山奇談**』

coco 著, 日高 トモキチ著, 玉川 数著 KADOKAWA 913.6/サ/

人の暮らす地と、神の棲む山との境界にある里山。そこにはさまざまな生命とともに、不思議が息づいている。動物、植物、虫、土地にまつわる不思議な話を蒐集した、恐ろしくも懐かしい奇談集。

『**山の靈異記:ケルンは語らず**』

安曇 潤平著 KADOKAWA (幽 BOOKS) 913.6/ア/

冬の雪山で、小さな避難小屋の静寂を破るけたたましいノックの音と叫び声。“俺は不死身なんだ”とうそぶく男の危機…。異界としての山の風景と靈気を堪能できる山岳怪談 21 篇。『幽』等掲載に書き下ろしを加える。